

課コード	000613	作成日	平成20年4月1日
所属名	中央図書館	作成者	門奈幸男

政策名(上位目的)
図書館の整備充実
目の名称
図書館費

計画コード	分野	部	課	施策・事務事業
	款	項	目	事項
科目コード	06	29	16	
(旧科目コード)				

事業名			戦略性
ブックスタート事業			
事業概要			
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
乳児(8ヶ月～満1歳誕生月)とその保護者が絵本の読み聞かせ、わらべうた遊びを介して触れ合うことの大切さを知るきっかけ作りの子育て支援事業であるとともに、小さいときから本に親しむことによって言葉や想像力を育て、もって読書活動の推進を図る。		平成 19 年	
活動内容			
乳児(8ヶ月～満1歳誕生月)とその保護者を対象に、絵本を通して親子が触れ合うことの大切さを知っていただくため、ボランティア等による絵本の読み聞かせ、わらべうたの実演をし、併せて絵本の配布をして乳児の言葉や想像力を育て、生涯にわたる読書習慣の基礎となるよう取り組む。			
<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせやわらべうたの体験 おすすめの絵本を1冊プレゼント 赤ちゃん名の図書館利用者カードの作成 おはなし会等図書館事業の紹介 			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業
義務的事業	任意的事業	図書館法、同施行令、同施行規則、浜松市図書館条例、同施行規則	ワーキング提案事業
			×
事業運営方法			
直営	一部委託	全部委託	補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
財源内訳	事業費(千円)	0	0	2,705	3,056			
	国庫支出金							
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
	一般財源			2,705	3,056			
	人件費	0	0	2,400	2,400			
内訳	人工			0.3	0.3			
	単価			8,000	8,000			
計	年間経費	0	0	5,105	5,456			
	受益者負担率	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0			

性質別内訳		人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
平成18													
19	2,400			2,705									
20	2,400			2,552			504						

定量評価						
指標1	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
出生数に対するブックスタート対象乳児の参加率	目標	%		58	60	63
	実績	%		41		
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	0	5,105	5,456		
単位当たり経費	千円/単位	#DIV/0!	125	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%				
	実績	%				
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	0	5,105	5,456		
単位当たり経費	千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価		
過年度の実施内容		
<p>平成19年度のブックスタート事業は、中央図書館をはじめ全館で259回実施し、対象乳児の参加人数は3,001名であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート参加者の9割が、自宅で読み聞かせやわらべうたをすることが増えたと回答 ・ブックスタート参加以降、図書館を利用するようになったと回答した人は、6割強にのぼっている。 <p>平成20年2月20日号の広報はままつに、ブックスタート事業の特集を4頁にわたり掲載した結果、参加者が増加した。</p>		
事前評価	必要性	(分析・理由)
	A	読み聞かせにより乳児は耳からリズムカルな言葉を聞き、目からその場の絵を読み取る。これにより、心身のすこやかな発達を助け、読書習慣の形成に大きな成果をあげることができる。
事前評価	行政関与の妥当性	(分析・理由)
	A	この事業は、市内の全乳児とその保護者を対象としたもので、母子健康手帳にブックスタートの案内を記載し、チラシ配布などで関係機関やボランティア等との連携が必要であり、継続的な事業として発展させていくためには市が主体となって推進することが妥当である。さらに、子育て支援や読書習慣の形成など読書活動への支援は、図書館業務の一つでもある。
事後評価	有効性	(分析・理由)
	A	平成19年度末に1歳6ヶ月検診の会場でアンケート調査を実施し、その結果この事業に参加以降、9割の家庭で読み聞かせやわらべうたを行うことが増え、母親だけでなく父親も読み聞かせをしている家庭は4割ある。また、図書館を利用するようになった人は6割強あり、この事業により乳児、母親、父親が本と親しむ機会が増え、本を通して親子のきずなが深まった。
事後評価	効率性	(分析・理由)
	D	平成19年度より開始の事業のため前年対比ができない。
今後の事業展開		
規模		(分析・理由)
拡大	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	アンケート調査結果、4割がブックスタート事業を知らないと回答し、さらに知っていると回答した人の4割は、開催日が都合に合わない、時間がない等の理由で参加しなかった。このため、さらに事業のPRを進めるとともに、開催方法の見直しをして参加しやすいものにする必要がある。参加者が増えることにより、図書館利用者の増加も期待できる。
具体的な改善内容・事業の方向性等		
<p>H19年度より開始の事業であり、市全域の図書館サービスとして充実したブックスタート事業を進め、子育て支援、図書館利用の促進および読書活動の推進を図る。開催回数の増加、参加しやすい休日での開催の増や図書館以外での開催など内容の充実を図り、さらに関係機関と連携した「ブックスタート」のPRの実施により、参加者数の増加を目指す。</p> <p>(問題意識) この事業は、絵本を手渡すことで本と親しむきっかけを作るという運動であり、子育てを支援する運動でもあるが、事業の認知の低さや本を無料で配るだけという理解をしている人も少なくない。このため、今後の事業展開の方向性を模索するため選定した。</p> <p>(想定結果) 市の実施が適当なもの</p>		
(備考) 事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘		
<p>平成16年9月定例会、金子一美議員(公明党) 本市においてもブックスタート事業を実施に向け検討すべきと考える。</p> <p>(市長) 幼い時からの絵本の読み聞かせは読書推進及び子育て支援の両面で多大な成果を上げ得る事業である。当市では現在、絵本を無料で手渡すというブックスタート事業は実施していないが、合併12市町村のうち2市4町で既に実施していることから、合併後2年後をめどに新たなブックスタート事業の構築を図っていく。</p>		